

研究発表② CT部門 座長集約

日本赤十字社和歌山医療センター 川嶋 宏樹

演題. 7

松江赤十字病院 新崎英貴氏による「Dual Energy CTを用いた肝細胞癌におけるヨード（水）密度画像の有用性」の発表であった。Dual Energyを用いたCT検査は、まだまだ広く一般的に行われていないのが現状であると思われる。現に私の施設にも対応したCT装置は導入されていない。今回の発表は仮想単色X線画像とヨード（水）密度画像において、CNR評価を用い肝細胞癌の検出効果を比較するものであった。ヨード（水）密度画像の方が、CNRが高く、検出効果が高いという結果であったが、この両画像のCNR評価を用いた肝細胞癌の検出効果を比較することが妥当であるかの疑問を持った。体感していないため文献からの意見になるが、仮想単色X線画像は実効エネルギー毎に造影効果に変化しコントラストに影響する。68keVの画像は従来の120kv相当の画像として提供し、肝細胞癌の検出効果という点からは、ヨード（水）密度画像が有用というよりも、仮想単色X線画像においてもっと低い実行エネルギーで検討し、腫瘍と肝実質のコントラストをつけた方が良かったのではないかと。また、造影効果の向上が期待できるため、造影剤の減量も検討できる。

演題. 8

深谷赤十字病院 齋藤幸夫氏による「CT撮影室における新人教育」の発表であった。CT検査時における医療安全について、熟練した技師の目線はどこを見て何に注意を払うべきかを、ウェアブルカメラを用いて表現するという新しい試みであった。検査中はコンソールばかりに目を奪われて、被検者の状態や検査室内の様子に注意を払うことは少ない。したがって熟練した技師は何を見て何に注意を払っているのかを、実際の目線を通じて学ぶ事は大変意義のあるものと思われた。ビデオ編集において、撮影者の注視点に赤丸を重ね合わせたり、見ているものを文字としてテロップを入れたり、スーパーインポーズの技法を取り入れることにより、より解りやすいものに仕上がったのではないかとと思われる。

演題. 9

高山赤十字病院 今井丈晴氏による「当院における造影CT検査の急性副作用発現率と緊急時対応システムの構築」の発表であった。検査室に医師が常駐できないため、急性副作用発現時に救命センター協力

のもと、迅速に連絡し対応するというシステムの構築である。電話等の連絡ではなく、専用直通ボタンを採用することにより、より速く確実に伝達できるものと思われる。造影剤による重篤な副作用が発生した場合、適切な対応の遅れが重大な医療事故につながりかねない。全ての施設において緊急時の対応について普段から取り組み、実践に活かせるようにしておくことが重要である。

研究発表② MRI 部門 座長集約

八戸赤十字病院 大澤 哲平

研究発表②における MRI 部門の研究発表では、以下に記す 2 演題が行われた。

演題 10.

「MRCP における食事摂取後の経時的胆嚢体積変化について」松山赤十字病院 露口智絵氏の発表であった。MRCP 検査において食事制限をすることは知られているが、食事の種類で胆嚢体積がどれだけ変わり、時間とともにどのように再拡張していくかはあまり知られていなかった。本研究にて、食事の種類と検査目的によっては、失念などにより食事をしていても検査ができる可能性が示唆された。各施設での、MRCP 検査における食事制限の取り決めにおいて、一助となる発表であると思われる。

演題 11.

「乳腺 MRI が特に有用であった 1 例」高松赤十字病院 土田紘子氏の発表であった。本研究では、乳頭血性分泌の症状があるにもかかわらず MMG、US で病変を確認できない患者の 1 例に注目していた。本患者に対し乳腺 MRI を行ったことで腫瘍を指摘し、病理診断にて乳頭腺管癌と認められており、乳腺 MRI が診断に有用である可能性を示してくれた。乳腺 MRI は、感度が高いが特異度も高いことが知られており、Minds による推奨グレードも決して高くない。しかしこのような症例もあることから、臨床症状等を考慮したうえで乳腺 MRI を行うことも検討してよいものと思われる。

演題 10. の発表は、座長や理事の方々からも評価が高く、優秀賞を授与することとなった。

研究発表③ 医療情報・管理・運営・教育部門 座長集約

松江赤十字病院 磯田 康範